

本願寺 御歴代門主シリーズ

その十一

本願寺第十二代宗主

准如(じゅんにょ)上人(一五七七～一六三〇年)

准如上人は天正五年(一五七七)、第十一代頭如上人の第四子として、戦乱中の石山本願寺で誕生されました。

頭如上人が大坂退去の誓紙を織田信長に届け、石山本願寺を退去した後、本願寺は紀州(和歌山)鷺森(さぎのもり)・泉州(大阪)貝塚・大坂天満・京都西六条(七条堀川)と転移し、准如上人は十五歳の時、天満本願寺で得度されました。

当時の本願寺教団は、石山退転を決意された頭如上人と、反して徹底抗戦をとった頭如上人の長男・教如上人と大きく二分していました。

文禄元年(一五九二)に頭如上人が往生され、当初、本願寺の法灯は長男である教如上人が継職されましたが、豊臣秀吉は十年後に弟の准如上人に職を譲るよう教如上人に通告しました。

しかし、教如上人の従者らがこの通告に疑義をとったことが秀吉の怒りに触れ、教如上人は直ちに職を去ることを命じられ、文禄二年(一五九三)准如上人は十七歳にて本願寺第十二代の法灯を、継職されることとなりました。

しかしその後、慶長七年(一六〇二)に徳川家康が、教如上人に寺地を寄進して東本願寺が建立されました。これが東西本願寺の分派の歴史です。

准如上人は近世国家成立の政治的重要期に教団の護持と安定をはかれ、関東一円の末寺の組織的教化と



本願寺第十二代宗主 准如(じゅんにょ)上人

江戸幕府による政治に対応するために、元和三年(一六一七)江戸浅草横山町に御堂を建立されました。これが築地別院の源流であります。

准如上人は江戸浅草御坊建立に際して、再三にわたって自ら江戸に出向し工事を監督され、竣工に際しては本願寺より須弥壇を下付し、堺御坊の「本尊を移されました」。

また准如上人は地方末寺の統制のため、浅草御坊の他にも、大阪(津村)・堺・福井・紀州鷺森・和泉尾崎・大和御所(やまと)・せ等の諸坊を造営されました。

しかし、浅草御堂が建立された同年の暮れ、京都の本願寺は火災により両御堂・対面所をはじめとするほとんどの建物が焼失してしまいました。

准如上人はその復興に尽力され、翌年には早くも対面所・仮阿弥陀堂を造営されましたが、御影堂建立など本格的な再建がなされるのは、次の良如上人の時代となります。

また、上人は能・和歌・連歌などの御造詣も深く、法要に雅楽を初めて採用するなど法式の発展にも留意されました。

准如上人は寛永七年(一六三〇)十一月三十日(旧暦)に五十四歳で往生されました。

※参考文献 福岡光超著／

「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「除夜会」(善教寺鐘楼堂)

十二月三十一日(火)午後十一時四十五分～

*鐘楼堂にて除夜の鐘を撞きます。

「元旦会」(善教寺本堂)

一月一日(水)午前七時～

「御正忌法要」(善教寺本堂)

一月十一日(土)朝席：午前十時～

昼席：午後一時半～

講師 鳥鼠恵華師(廿日市市原立善寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

一月十六日(木)午後一時半～

*毎月十六日に本堂において勤めております。



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール zenkyo@otera.or.jp